

日常のなかの科学と子ども

—不思議や謎と向き合い心を躍らせる体験を—

2023年8月26日(土) 27日(日) 両日ともオンライン開催

開催趣旨

子どもは不思議や謎が大好きです。そこには驚きと興奮があり、向き合うほどに好奇心と探究心がかき立てられます。仲間と分かち合うと楽しさも増し、場合によっては全体が歓喜の渦に包まれます。それは例えば、草花や木の実、虫、水生生物、土、砂、石、水、光や影、雨や雪といった自然に関することや、街を知る、人の仕事を知るといった社会的なことなど、子どもの身近にあるごく些細なありふれたものでいいのです。見方を変えさえすれば、それはいくらでも不思議や謎の対象となります。

とはいえ、大人にとって身の回りの多くの事柄は未知ではなく既知であるため、子どものちょっとした気づきや発見を見逃ししやすいものです。それは忙しくなればなるほど、管理的になればなるほど、その傾向は強まります。そして近年、そうした見逃しにはさらに拍車がかかっているようにも感じられます。結果として、不思議や謎と向き合い心を躍らせる子どもの貴重な時間だけでなく、そこに子どもを再発見しながら寄り添い過ごす保育者の楽しい時間すらも失われてしまっていないでしょうか。

科学分科会では、発足当初から子どもの気づきや発見、素朴な疑問、不思議感覚を大切にしてきました。それこそが、子どもにものごとを深く考えることを促し、自ら仮説を立てて確かめるという科学的な態度を養うと考えたからです。同時に、子どもの心の中が不思議や謎でいっぱいになり、いつまでもそれにかかりつきりになり、深くのめり込んでいられることは、子どもにとってとても幸せなことに違いありません。その幸せな時間を仲の良い友達とともに過ごし、分かち合うのであればなおさらでしょう。

このセミナーでは、これまで科学分科会で学んできたことや大切にしてきたことを皆さんと共有しながら、さらに新たに準備した記念対談や実践をもとに存分に語り合いたいと思います。なお、今回も昨年と同様、Zoomによるオンラインセミナーとなります。実施方法上の制約はありますが、できるだけ多くの方と交流し、学びを深められたらと考えています。皆さんのご参加を心よりお待ちしております。

1日目 8月26日(土) 全体会 13:00~17:00

1. 開会のあいさつ 清原みさ子(愛知保問研)
入江 慶太(全国保育問題研究協議会代表・岡山保問研)

2. 基調報告

- ①科学分科会のあゆみ 富田 昌平(三重保問研)

これまでの科学分科会のあゆみをふり振り返りつつ、科学分科会でどのような実践が取り上げられ、議論されてきたか、そこから学んできた子どもの中に科学する心を育むうえで大切にしたいことは何かについて、みなさんと共有したいと思います。

- ②科学部会のつくり方 高橋白百合(愛知保問研 科学部会)
深井いし子(京都保問研 科学部会)
増本 敏子(大阪保問研 かがく部会)

全国各地で科学部会がどのように発足され、運営されているか、科学部会独自の楽しさとは何なのかについて、京都、大阪、愛知の保問研からご報告いただきます。ご自分の保問研で新たに科学部会をつくるうえで、ぜひ参考にしてください。

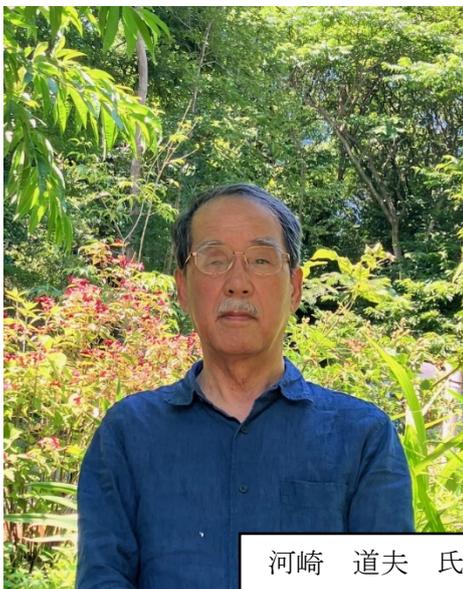
3. 記念対談

テーマ：「子どもと自然」

対談者： 河崎 道夫（三重保問研）×湯谷 道雄（京都保問研）

司 会： 滝口 圭子（石川保問研）

長年にわたって保育の現場の遊び実践に学びながら親しみやすく説得力のある遊び理論を築いてこられた河崎道夫さんと、保育の現場で自然と格闘しながら、子どもの中に科学する心を育む実践について深めておられる湯谷道雄さんとの夢の対談です。どんな化学反応が生まれるのか非常に楽しみです。



河崎 道夫 氏

三重大学名誉教授。新潟県出身。1948年3月生まれ。東京教育大学大学院教育学研究科単位取得退学。北海道教育大学釧路校、三重大学、高田短期大学に勤務。現在、同大学育児文化研究センター研究員。「子どもの遊びと発達」「保育における子どもの遊び」について、保育現場をフィールドとして研究活動を進めてきている。長年、保育者養成教育にかかわり、近年は自然体験実習のための森林整備にも取り組んでいる。主な著書に『子どものあそびと発達（編著）』、『あそびのひみつ』、『発達を見る目を豊かに』、『あそびのちから』、『ごっこあそび』、『あそびが語る保育と発達』など。



湯谷 道雄 氏

京都市久世保育所勤務（保育士17年目）。前職は酪農ヘルパー。1978年3月生まれ。子どもが何かを発見した瞬間、深く考えている表情、飛び跳ねるように心が躍り、何ともいえない眼をしている。そんな場面に立ち会えると、とても幸せな気持ちになります。保育現場で、数々の失敗や壁とぶつかり、悩みは尽きないけれど、憧れと好奇心を持って、子どもたちと共に学び続けていきたいです。『仲間がいれば、何でもできるで！（季刊保問研296号）』、『ソニー教育財団優秀園賞・京都市楽只保育所 執筆代表』、『楽しさが湧き上がる保育の土壌を創りたい（2020）』、『科学する心の芽が生まれる要因とは何か（2021）』

2日目 8月27日(日) 分散会・全体会 9:30~12:30

簡単な全体会を行った後、3つの分散会に分かれて実践提案をもとに考え、深め合います。希望の分散会を選んでください。

1. 分散会

①爪ってなんであるんだろう？—看護師と子どもたちの取り組み—

実践提案： 島田 静 (愛知保問研)

司会： 清原みさ子 (愛知保問研)・高橋白百合 (愛知保問研)

本実践は、日々、子どもたちと関わり、クラスの様子や一人一人の健康状態を見ている看護師が、トラブルの多い様子に、痕が残るような傷をつけてしまうことは防ぎたいという思いでしている爪の点検で、爪は単に短いから「○」、長いから「×」、「自分はバツ」と思わせていないだろうかという疑問を持ったことから始まります。科学の視点を取り入れて、爪の役割を様々な角度から考え合い、爪について知ることで爪ってスゴイと感じたり、自分の身体の小さな部位にも役割があることに気づいたりして、身体に関心を持ち、自ら身体を大切にしようとする子に育ててほしいと取り組んだ実践です。

4歳児の時に、指の模型を見、片手につけ爪をして生活のしにくさを体験します。5歳児では、レントゲン写真と自分の指を比較、再び模型を見、つけ爪を両親指と人差し指にして確かめていきます。そうした中で、骨の形、関節、手、手首、肩、動物の爪へと意識が広がり、爪はどこから伸びてくるのかと観察し、さらにレントゲン写真では爪は見えなかったのに、どのようにして生えてくるのかと関心が広がっていきます。科学的知識に触発され、体験を通して考え、気づきや疑問が膨らんでいった様子を報告します。

②里で暮らす同じ命を感じて一心の根っこを育てる保育—

実践提案： 大槻 早希 (京都保問研)

司会： 滝口 圭子 (石川保問研)・深井いし子 (京都保問研)

京都市内でありながら、茅葺屋根の家屋が残る里山の保育所です。日々の散歩では、小川や裏山、農道へ散歩に出かけ、五感を通して季節の移り変わりを感じ、地域の方と繋がって遊んできました。道中には、野生動物の存在を感じることもあり、子どもたちのごっこ遊びにも登場するほど身近に感じられる豊かな自然に囲まれています。

ある日、散歩道で檻の罠に掛かった小さい鹿に出会いました。鹿の姿に、目の前の命に対する畏怖と「かわいそう」と感じた子どもたち。しかし、鹿は里の暮らしにとっては田畑を荒らす「獣害」という存在。里で暮らす同じ命について、鹿の生きる為の理由・人の生きる為の理由を考えました。その後、「八つ頭の大鹿」という地域に伝わる民話があることを知り、子どもたちと読みました。小鹿と出会った実体験と大鹿の話で一層話が膨らみ、大鹿に対して友好派と討伐派に意見が分かれました。分かれてからも子どもたちの発想や言葉を見守ります。思いを馳せる内容に、大人が良い・悪い、正解・不正解で答えを出さない。実体験と、鹿と人それぞれの思いを想像する過程、そしてその思いを友だちと共有する時間が、こころの根っこを育てると感じています。

③鏡あそび—0歳児と4歳児の実践—

実践提案： 曾根 寛史・長崎 元気 (大阪保問研)

司会： 富田 昌平 (三重保問研)・増本 敏子 (大阪保問研)

大阪保問研のかがく部会では、身近なものや現象を素材とした遊びに取り組んでいます。その中で私たちは、子どもたちが日々の生活の中で感じる素朴な興味や、疑問を感じた時の関わりの姿に注目

し、それらにじっくりと関わることを目的として、水や風、音、磁力、斜面などを教材として活用し、それらの遊びを「かがく遊び」と呼び実践や討議をしてきました。

今回の夏季セミナーでは、「鏡」をテーマにした0歳児と4歳児クラスの様子を提案します。0歳児の実践では、保育室の壁に張ることで子どもの視界に入るようにすることで、子どもが興味をもって関わろうと近づいたり、鏡がある所とない所を交互に見比べたりするような姿が見られました。また、保育者が子どもの月齢や興味に応じながら、鏡を張る場所や枚数などを工夫したことや、その時の子どもの様子についての報告をします。4歳児は、クラスの子どもたち全員が1枚ずつ鏡を持って、自由に探索した実践です。保育室や園庭の物を鏡に映していた姿や、友達の鏡と合わせて使用したり、見る角度によって景色が変化したりする様子について、場面ごとのエピソードとして報告します。

当日は、0歳児や4歳児が鏡を通して感じる世界について、参加された皆様と討議できることを楽しみにしています。どうぞよろしくお願ひ致します。

2. 全体会

3. 閉会あいさつ 高橋白百合（愛知保問研）

申し込み方法

◆参加費： 2,000円（学生 1,000円）

◆申込方法：

- 1 以下のアドレス、もしくはQRコードを読み取っていただき、参加申し込みフォームから申し込みを行ってください。

<https://forms.gle/E5UEJGZWep3Xb6cU9>



複数名で参加される場合も、お手数ですがおひとりずつお申し込みください。
その際、同じメールアドレスや連絡先を使用しないでください。

- 2 お振込みをする際には、お名前欄もしくは記入欄に「受付番号の記載」をお忘れなくお願いします。
お振込みがない場合、キャンセル扱いになりますので、ご注意ください。
お振込みいただいた後の返金はできませんので、ご了承ください。

*セミナー要項は各自でダウンロードをおねがいたします。

◆申込締切日：8月10日(木) まで

◆問合わせ：全国保育問題研究協議会 事務局 Tel/Fax 03(3818)8026 Mail : hkakisemi@yahoo.co.jp